

地域とともに生き、 信頼される医療機関であり続けるために

1973年9月、「医療法人社団 仁愛会」を設立し、東埼玉病院が開設された。
それから40年。厚生労働大臣の認定を受け、「社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス」(JMA)へ移行。
時代の変化、医療・介護業界の変化の中、地域に根を張り、医療を提供し続けてきた。
創立者の田中名誉院長と関口院長、現在のJMAの陣頭指揮をとる鄭理事長と田島副本部長に、
これまでのJMAと次世代へ紡ぐ想いを語っていただいた。



目標を見据え、前進し続けた40年間

田中 「自分たちの病院を作りたい」という一心で、前進し続けてきた40年。紆余曲折がありましたが、目標を見失うことなくここまで来られました。誰に聞かれても悔いのない人生を過ごしてきたと胸を張って答えられます。

関口 ジャパンメディカルアライアンス (以下、JMA) が40年を経て、私が70歳を迎えました。よくここまで大きくなってくれた。達成感はありますが、ただ今も日常は続いている中で、まだ発展途上という思いがないわけではありません。その意味では、東埼玉総合病院は昨年新築移転がすみ一区切りつきましたが、海老名総合病院はこれから再構築していく段階。非常に大変でしょうけれども、どのように発展していくのか楽しみでもあります。

鄭 17年前に大学からの派遣で海老名総合病院に赴任した時には、あまりの多忙さにカルチャーショックを受けました。またちょうどその頃、病院経営はこれまでのやり方を転換しなければ成り立っていかない時代に入っていたこともあり、諸先輩方と何度も対策を練り、奔走し続けた17年間だったと思います。

関口 私は他の病院に勤めた経験がありませんので、忙しいのは当たり前という感覚だったけれども、鄭理事長にはずいぶんご迷惑をお掛けしました。

鄭 逆に言えばその経験があつて今の私がいるということでもあります。人間関係の良い、居心地の良い職場だから頑張つてこられたのだと思いますし、関口先生、田中先生、杉原前理事長、田島理事の優れた施策と決断力があつてのことだとも



田島 哲夫

法人本部・副本部長

田中 昭太郎

海老名総合病院・名誉院長

関口 勝也

東埼玉総合病院附属
清地クリニック・院長

鄭 義弘

理事長
法人本部・本部長
海老名総合病院附属
海老名メディカルサポートセンター・病院長

思います。非常に感謝しています。

田中 東埼玉総合病院も海老名総合病院も、救急医療に積極的に取り組んできましたから、緊張の連続だったと思います。医療の原点は救急診療。“痛い”、“苦しい”を何とか救えないかというのが私達の信念であり、バックボーンですから、基本的に救急患者は拒まずの姿勢でした。特に鄭先生(現、理事長)が大学からの派遣医師として来ていた頃は、県央2次医療圏で二次救急をやっている総合病院は少なく、救急医療の対応の凄まじさにそれは驚かれたと思います。今日のJMAを背負うことになる鄭先生を派遣してくださった東海大学の三輪教授には感謝しています。

田島 私がJMAに参画したのは1995(平成7)年で、その年に阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件が起きました。大変な時代でしたけれども、非常に驚いたのはJMAのバイタリティです。増床を始めとしてさまざまなことに取り組み、いつでも前向きでした。これがJMAの風土なのだと実感したことを覚えています。

JMAの礎は、強い意志と信頼できる仲間

関口 私たちはこれまで、決して拡張主義でできたわけではなく、時代や状況が変わっていく中で、それに合わせて現場の皆さんとともに切り拓いてきました。JMAの基盤が磐石になったということでは、海老名総合病院の開設が大きな意味合いを持っていますが、それもその機運が押し寄せてきて実現したこと。状況の変化に皆で挑むという姿勢は今も変わっていないのではないかと思います。



信頼こそJMAの強みであり、 創業メンバーの方々が 築いてこられた礎 —— 田島

たら、地元の幸手市の方々のほうが圧倒的に多かったのです。やはり病院(医療機関)は地元に着しているのだと改めて実感しました。私たちはこれからも地域の人たちの期待に応えていかなくてはけませんし、深く根を張って、存続し続けていかなくてはならないと思っています。

田中 まったくその通りです。それゆえ、海老名という地域で私たちは新参者でしたから、最初の頃、受け入れてもらえるのかどうか不安がありました。救急診療に邁進したのも、地域の人たちの役に立ちたかったという想いが強かったからなのです。私たちの真摯な姿勢を地域の方々が理解し、受け入れてくださったからこそ、今もこうして保健・医療・福祉の分野で私たちはJMAの機能を提供し続けていられるのだと思っています。

鄭 そうですね。地域密着と言葉だけを発していても何の思いも伝わりませんから、私はそれを具体的に実践するために、患者さんに対して一方的に押し付けるのではなく、患者さんが何を求めているのか、患者さんの立場に立って考えるという診療を心掛けてきました。地域で必要とされる存在になるには、隔絶した関係からは何も生まれません。患者さんとの距離を縮めつつ、適切な医療を提供し続けることが私たちの使命だと思っています。

誠実に、前向きに 患者さんと真摯に向き合うことが真の医療

田中 JMAが地域医療の中で患者さんの期待に応え、役割を担い続けていくために、経営陣を始めスタッフの皆さんに忘れてほしくないことがあります。それは、私たちは医療と介護を中心として、医療保険・介護保険制度に基づいた保険診療を担っているということです。このことを強く認識し続けてほしいと思っています。医療や教育などは共有する社会資本ですから、そこでお金を稼ぐことのみに徹すると何かが捻じ曲がってきます。良質な医療や介護を提供し続けていくことを考えると赤字経営では困りますが、営利のみを最優先すべ

きではないと考えています。適正な医療・介護を適切に提供し続けるにはまずは誠実であるべきで、そういう認識で仕事に取り組んでいただきたい。

田島 誠実であることは何よりも大切だと思います。人との関係も誠実さがなければ続きませんから、まずは人に、そして仕事に誠実であることを望みたいです。

鄭 それに加えて、どんな仕事も真面目に精いっぱい取り組む姿勢のある人であってほしいですね。どの仕事にも必ず意義があります。一見さもない仕事のように思えても、継続していくことで地域のためにも自分たちのためにも重要な位置付けになることがあります。

田島 私は新しい価値観や考え方を受け入れることができる柔軟性も必要ではないかと思います。医療・福祉の分野は、国の財政問題や制度改革、社会環境の変化などさまざまな要因が押し寄せてきている中で、これまでの考え方を一新しなくてはならない局面が増えています。変化に柔軟に対応して適切な機能と価値を提供することが、即ち地域医療を支えるということだと考えています。

鄭 その通りだと思います。医療も福祉もまず患者さんを基点として何事も考えていくという姿勢が大切だと思っています。地域に密着する医療機関は、ともすれば患者さんの人生やご家族といった背景に寄り添いながら診療に取り組み、求められている医療・介護を提供していくことが一層重要になっています。私自身も含め、患者さん一人ひとりと膝を突き合わせて、最良の医療・介護を提供していくことに真摯に取り組んでほしいと思っています。

田中 更に加えるとしたら、ポジティブであることです。何事にも前向きに取り組む姿勢は、JMAの文化でもありますからね。

私たちが最初に掲げた理念を 受け継いで、後世まで存続 させていきたい —— 田中

鄭 その意味ではJMAには元気な人が多いですね。少々のことではへこたれないし、後ろ向きに考えることもない。前向きで活気があるところは、これからも継承していつてほしい文化です。実はこのことが一番重要なかもしれません。患者さんの苦しみやつらさを受け止めて、未来に明るさを示せるような強さを私たちが持ち続けることで、信頼を得られると思うのです。

地域に信頼される医療機関で あり続けるために必要なこと

田中 地域医療を支え続けるという目的からも、次代を担う人たちにはとにかく仁愛の精神を継承することを最重要課題として捉えてほしいと思います。私たちが最初に掲げた理念を受け継いで、後世まで存続させていきたい。世の中には200年、300年と続いている老舗があります。長い時間続いてきたベースには〃のれん〃を守るという強い意志が脈々と受け継がれてきたからだと思うのです。私たち医療機関の場合は、理念がのれんのようなもの。この先もJMAが順風満帆で





あるとは限りません。困難なことにぶつかる時がきつとあると思います。その時に、JMAの原点は何だったのかを思い出して、突破口を探していただきたいと思います。

鄭 私は大きく三つのことを考えています。一つは田中先生がおっしゃる通り、理念の継続。一番重要なことだと思います。真の医療とは、患者さんの状態に応じて最適なものを提供することにあると信じています。患者さんが何を求めているのかを考えて提供することが本当の医療。そこを目指さなくてはいけない。もう一つは、受診の敷居を下げること。病気でなければ立ち寄れないような敷居の高さがあると、予防や早期発見・早期治療が遅れることがあります。症状が著しくなくても不安を抱えている患者さんが立ち寄れる医療機関にしていきたい。更にもう一つは、患者さんを始め、地域に信頼される医療機関であるために、情報公開に取り組んでいきたいと考えています。

関口 情報公開は昔とは比べものにならないくらい透明化が進んでいますね。医療機関専用のグループウェアがあるけれども、そこで公開されている情報には驚かされた。私が理事長だったらとても許可できない内容でしたよ(笑)。



良質の医療・介護を提供し続けるには、
まず働いている人たちが元気で
笑顔でないといけない ― 関口

田中 現在、病院の情報はずいぶんオープンになりましたが、今後は更にそうしたことが進んでいくのでしょうか。その意味では、JMAはカルテの開示、事故調査委員会の体制構築など、他に先駆けて透明化に取り組んできた実績がありますから、鄭理事長のこれからの取り組みに注目しています。

田島 私は、これからの時代は、何事も組織で動かないと立ち行かなくなるのではないかとと思っています。チームの中で優秀な人がマネジメントをして、チーム全体で物事に取り組んでいくという体制が必要で、組織力と人材は非常に大きな要素を占めていくはずだと思います。

関口 医療の現場はとかく保守的な傾向があって、特に経営をサポートしてくれるような能力のある事務方の人が集まりにくいということがあります。その意味では田島理事は医療とは別の業界から入ってきてくれて、私たちとは別の角度から新しい見方や考え方を示していただき、非常に能力を発揮してくれました。そういう人をもっと増やしていかないとけない。人材育成は引き続きのテーマでしょうね。

鄭 その意味では、職員全員がいきいきと働きやすい環境をつくることも大切です。教育体制の充実や職員同士のコミュニケーションを活性化する方策を打ち出すなどのサポートは必要だと考えています。更に言うと、私はチームとしての考え方を地域にまで拡大し、地域の医療資源の存続や活性化に地域ぐるみで取り組むといった環境づくりを行うことも大切だと考えています。

田中 それは必要なことです。海老名市は県央地域では他市に比べて医療体制が整っていると言えますが、この状況が10年先も続くという保障はどこにもありません。地域の医療資源を効率的に活用することを地域住民の皆さんに働きかけ

広い視野を持ってさまざまなことに
取り組み、未来のJMAを
創っていききたい ― 鄭



ていくことも必要です。県央地域というやや広い単位で医療機関同士の連携体制を構築して、医療体制の更なる充実と有効活用に取り組んでいく必要があると思います。

鄭 実際のところ、例えば入院ということでは、私たちのところでも慢性期の患者さんが安心して長期入院療養できる施設を確保する必要に迫られてきています。高齢化に伴う慢性期の入院病床や在宅療養体制を充実させていく必要性はますます高まりますから、私たちとしても機能分化と連携体制の構築を急ピッチで進めていかなくてはならないと考えています。

夢は大きく 果敢にチャレンジを

鄭 私は理事長として、スタッフの方々にお願いしたいことがあります。それは、今後の人生設計の中で長く、医療と福祉サービスに従事し続けるという視点を持っていただきたいのです。JMAは急性期医療から介護福祉に至る複数の施設を展開して、多機能を提供しています。それはとりもなおさず幅広い経験ができるということ。若いうちから医療と福祉を経験しておくことで、知識やスキルが充実するだけでなく、人間としての厚みも増すはず。患者さんに対してより良いサービスを提供できれば、仕事のやりがいとして自分にも返ってきます。ぜひ広い視野を持ってさまざまなことに取り組み、未来のJMAを創ってほしいですね。

田島 私は次世代の人たちには、いずれ世界を目指してほしいと思っています。

田中 それは非常に大切なことです。現時点では世界を目指すなんて夢物語のようですが、将来展望として世界を視野に入れておかないと、変化が起きた時に遅れてしまう。夢は持ち続けてほしいですね。

関口 私たちが創業した時のようにね。夢を描かないと実現しませんから。それと、良質の医療・介護を提供し続けるには、まず働いている人たちが元気で笑顔でないとはいけません。患

者さんの評判もしかりだけれど、働く人にとって人気のある職場であることが重要だと思います。これからも頑張ってほしいし、果敢にチャレンジし続けてほしい。

田中 海老名地区について近未来的なことを言えば、地域で求められている救急診療体制の更なる充実に取り組んでほしいと思っています。救急救命センターはぜひとも実現していただきたい。これも夢の一つかもしれませんが、大志を抱き続けてほしい。

鄭 JMA be ambitious (JMA大志を抱け)。このことを忘れずに進みます。

関口 次の方々がこれからどのように受け継いで発展させていってくれるのか、楽しみに見守っています。

